

b. 風疹（ふうしん、三日はしか、Rubella、German measles）

感染力は、麻疹や水痘ほど強くありませんが、風疹の抗体を持たないまたは低抗体価の妊娠中の女性が風疹にかかると、胎児に難聴や心疾患、白内障や緑内障などの障害（先天性風しん症候群）が起こる可能性があります。平成 24 年からの流行の影響で、平成 24 年 10 月から平成 25 年 11 月までに、29 人の先天性風しん症候群の患者が報告されました。

i. 原因

風疹ウイルスによる急性の発疹性感染症。飛沫感染が主体。

ii. 臨床像

潜伏期間：2 - 3 週間（平均 16 - 18 日）。

主な症状：発疹、発熱、リンパ節腫脹が認められる。ウイルスに感染しても明らかな症状がでることがないまま免疫ができてしまう（不顕性感染）人が 15・30% 程度いる。

合併症：症状は子供では比較的軽いですが、まれに脳炎、血小板減少性紫斑病などが発症することがある。

iii. 予防

定期予防接種対象者（1 歳児および小学校入学前 1 年間の幼児）以外に、妊婦を守る観点から下記のひとに予防接種が勧められています。

- 1) 妊婦の夫、子ども及びその他の同居家族などの、妊婦の周囲の方
- 2) 10 代後半から 40 代の女性（特に、妊娠希望者又は妊娠する可能性の高い方）
- 3) 産褥早期の女性

のうち、抗体価が十分であると確認できた方以外。